

「ぎふ総文」演劇部門・ 舞台技術創造講習を視察して

レポート：今井 春日

□2024年8月2日、全国高等学校総合文化祭「ぎふ総文2024」演劇部門の最終日を視察しに、岐阜県羽島市にある不二羽島文化センターへ行ってきました。

全国高等学校総合文化祭には、昨年度の鹿児島大会で初めて携わり、高校演劇特有の魅力と、舞台技術創造講習の存在を知ったばかりです。今年度は残念ながらスケジュールが合わずお引き受けできませんでしたが、昨年深い縁ができた講師陣の皆さんや、全国の高校演劇事務局の先生方へのご挨拶も兼ねて、現地へ赴くことにしました。

講習会の概要や詳細は、今年度の音響オペレーターであり講師である熊野大輔さんのレポートにありますのでこちらでは省略します。講師の藤田赤目さんによる音響の講習内容についても詳しくレポートされているので、内容が重複しないよう、観客として講習会を観て考えたことを書こうと思います。



熊野講師と音響班

□今年の題材となった上演作品『きみのこえをさがして』は、妻の死を受け入れることができず、AIを使って妻の存在を蘇らせようとする研究者の男と、その娘の話です。男は家に閉じこもり、妻アキの過去の記憶や思い出を集めてはAIにデータを入力する作業に没頭しています。娘から晩年の妻のデータを半ば無理やり提供させ入力を遂行した結果、精度が上がり過ぎたAIのアキは、男に自分の思いを伝え、前を向いて生きていくように諭し、自らデータを消去して姿を消します。

上演の見どころは、主人公の男が部屋から出て、外へ歩いていくラストシーンです。男を取り囲み、外界と隔てるように立っていた舞台上の3本の柱は上空へ飛び、舞台奥から差すバックライトが男の進む道を照らします。映画『The Cider House Rules』のサウンドトラックから抜粋された音楽がかかり、男が客席に向かって歩き始めて幕切れとなりました。

講習会に参加した人たちに配られた資料には、オリジナルの脚本と、演出プランメモが載せられています。この演目の全体のテーマは、作中に描かれている、幼い頃の妻アキと男との大切な記憶「かくれんぼ」に注目し、「男がアキとの「かくれんぼ」から一歩外に出る話」とされています。死んでしまったアキに心を囚われていた男が、隠れるのをやめて一歩を踏み出すまでを印象的に見せたいという演出プランです。

このプランをもとに、舞台技術の力を使っ

て「歩み出そうとする主人公の背中を押してあげる」ための創作過程が、演出家や脚本家も含めた全員による座談会で語られました。脚本や演出の意図を、それぞれのセクションの視点からどのように汲み取り表現するのか、アイデア出しから実際に舞台上に立ち上げるまでのプロセスが話され、実際の上演を見たあとの参加者たちからは、納得の反応が見られました。

□自分の話になりますが、私が舞台音響の世界を強く志したきっかけは、大学4年次にインターンシップで劇場主催の演劇公演のクリエイションに付かせていただき、稽古場から本番まで作品創作のプロセスをじっくり見ることができた経験があったからです。ひとつのアイデアが、それぞれの分野のプロフェッショナルの手によって彩られ、互いに新しい視点を与え合い、自分ひとりでは思いもしなかった形に膨らんでいく様子に、強烈に心を打たれました。舞台技術が担う表現というものへの可能性と重責を知ると共に、こんな場所にもし自分がいられたらどんなに素敵だろうと強く思いました。技術的、実践的なことももちろん多く持ち帰りましたが、これまでうまく思い描けずにいたリアルな創作現場の



土屋講師(奥)と衣装班

空気を知り、そこに自分がいることを想像できたのが、なによりも大切な経験となりました。これがわたしにとっての原点で、今でもモチベーションとなり追い求めている風景です。

今回の講習会では、そういった創作過程を語る座談会の内容がとても充実していたのがよかったと思います。講師の土屋さんから「こんなおじいさんに近い大人たちが、瞳をキラキラさせて取り組んでいるところを見てほしい」という言葉がありましたが、まさに創作するのが楽しくてしかたない講師陣たちの生き生きとした様子が素直に表れていました。技術スタッフの仕事は実作業に注目されることが多いので、このように作品の中身について思いを巡らせ、それぞれの立場からアイデアを出し表現へと昇華する道程を知るとは、高校生たちにとって新鮮だったと思います。舞台技術という世界への漠然とした興味や憧れが、この光景を見て少しでも輪郭をもってくれたら良いと思いました。

とは言いながらも、何か使える技術を持ち帰って真似しよう！という強い意気込みを持った生徒や顧問の先生たちからは、「実際に機材に触る機会があったらよかった」などの意見も多かったようです。短い時間の中でできることは限られていますが、技術創造講習の核となる本質的な部分も大切にしつつ、受講者の意見も取り入れ、今後もこの講習会が発展を続けながら永く続いていくことを願います。



金井大道具による講座



鹿目講師と出演者



乳原講師と照明班



土岐講師と道具班

写真提供：浅倉 麻里衣(聖和学園高校教諭)／大野 広行(岐阜県立各務原西高校教諭)

今井 春日(日本舞台音響家協会)／熊野 大輔(日本舞台音響家協会)

【入会のお願い】

協会では、個人正会員、団体正会員、賛助会員を随時募集しております。入会ご希望の方は、「入会申込書」をお送りしますので、協会事務局までご連絡下さい。

また、「入会申込書」はホームページか、下記のQRコードからもダウンロードできます。



入会ご案内ページ



申込書(個人正会員)



申込書(団体正会員・賛助会員)